

ナイジェリア

Federal Republic of Nigeria

	2008年	2009年	2010年
①人口:1億5,650万人(2010年)			
②面積:92万3,769k㎡			
③1人当たりGDP:1,389米ドル (2010年)			
④実質GDP成長率(%)	6.0	7.0	7.9
⑤貿易収支(米ドル)	470億	306億	241億
⑥経常収支(米ドル)	318億	231億	78億
⑦外貨準備高(米ドル)	530億	448億	349億
⑧対外債務残高(米ドル)	37億	39億	46億
⑨為替レート(1米ドルにつき、 ナイラ、期中平均)	118.55	148.90	150.30

〔注〕2010年の①③～⑥⑧は推計値
 〔出所〕①:IMF(WEO), ②④:ナイジェリア連邦統計局, ③⑦⑨:IMF(IFS), ⑤⑥⑧ナイジェリア中央銀行

■ 石油部門・非石油部門ともに好調

ナイジェリアの2010年の実質GDP成長率は7.9%と、過去6年で最も高い成長率となった。GDPの約3割を占める石油・ガス部門は、石油生産量が日量236万バレルに増加(前年比9.3%増)し、実質で4.6%の成長を示した。非石油部門も、通信(34.5%増)、建設(12.2%増)、卸・小売(11.2%増)などが伸び、全体で8.5%増と前年に続き好調だった。需要項目別にみると、GDPの3分の1を占める民間最終消費支出が26.7%減と大幅に減少し、国内最終需要は6.2%減少した。国内経済の低迷を受け、輸入が15.3%減と大幅に減少したが、輸出は11.4%増加し、純輸出額では前年比2.5倍となった。IMFは、今後も石油生産の増加を見込み、農業の生産性が向上すれば2013年まで6%台の成長率が続くとして予測している。連邦統計局も、最低賃金の引き上げにより2011年の個人消費の回復を見込んでいる。なお、IMFによると2010年の消費者物価上昇率は前年(12.5%)を上回る13.7%だった。

2011年4月に実施された国民議会選挙、大統領選挙は、北部の一部地域で暴動が発生したものの、国際選挙監視団から全体的に公平かつ平和に行われたと評価された。再選したジョナサン大統領は、引き続き電力不足問題や失業問題対策などの諸課題に取り組む方針だ。

■ 輸出入ともに過去最高を記録

2010年の貿易(通関ベース)では、輸出が前年比75.0%増の13兆99億ナイラ、輸入は31.7%増の6兆6,485億ナイラとなり、ともに過去最高を記録した。

輸出を品目別にみると、原油、天然ガスを中心とする鉱物性生産品が全体の約9割を占めた。輸出の7割を占める原油は、原油平均価格が2009年の1バレル61.8ドルから78.9ドルに上昇したことと、石油生産量が増加したことにより45.6%増と高い伸びを示した。また、天然ガスなども64.4%増と急増した。そのほか、やぎの革を中心とした皮革・毛皮製品が6倍以上の伸びをみせた一方、タバ

コは横ばいだった。国別では、米国(構成比34.4%、前年の2.2倍)が前年に続き最大相手国となり、中でも原油が82.2%増と大きく増加した。2位のインド(10.5%、92.0%増)向けは、液化天然ガス(LNG)の輸出が55倍に増加、同品目ではフランス、米国を抜いて最大の輸出先となった。以下、国別の総額は、ブラジル(7.0%、53.0%増)、オランダ(4.5%、約3倍)、フランス(4.1%、29.3%増)の順で、日本(0.5%、71.0%増)は28位だった。

輸入では、全体の約3割を占める機械・電気機器が33.3%増加、特に変圧器が4倍以上、コック・弁などが2倍以上の伸びをみせた。約2割を占める輸送機器は39.9%増で、特に乗用車が52.1%増と高い伸びを示した。国別でみると、米国が最大の相手国となり、2007年以降首位だった中国(16.6%、23.2%増)が続いた。3位は前年に続きフランス(5.8%、33.1%増)だったが、インド(5.4%、93.2%増)が前年から倍増し、ほぼ同規模になった。日本(2.6%、19.3%増)は11位だった。

■ 対内直接投資は減少するも、食品製造・通信などに動き

国際収支ベースでは、2010年の対内直接投資額(ネット、フロー)は前年比29.4%減の41億2,940万ドルであった。また、ナイジェリア投資促進庁(NIPC)によると、2010年の対内直接投資申請額は28億2,974万ドル(前年比46.9%減)だった。分野別では、銀行業(構成比32.1%)を筆頭に、製造業(30.2%)、通信業(16.9%)が中心で、石油・ガスは全体の3.2%だった。対内投資(直接・証券投資の合計)を国別でみると、英国(45.6%)が1位で、以下、米国(20.7%)、南アフリカ(9.0%)、オランダ(6.0%)と続いた。

製造分野では、シンガポールの農産物商社オラム・インターナショナルが、10年1月に現地資本ラバビディ・グループから製粉会社クラウン・フラワー・ミルズを1億760万ドルで買収するとともに、12月に同グループと共同で2

表1 ナイジェリアの主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ナイラ, %)

	2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB)	7,434,544	13,009,906	100.0	75.0
鉱物性生産品	6,720,182	11,415,944	87.7	69.9
原油	6,284,406	9,153,088	70.4	45.6
天然ガスなど	431,081	708,865	5.4	64.4
皮革・毛皮および同製品	76,578	461,088	3.5	502.1
タバコ	239,974	240,074	1.8	0.0
植物性生産品	80,240	182,263	1.4	127.1
輸入総額(CIF)	5,047,869	6,648,526	100.0	31.7
機械・電気機器・同部品	1,448,993	1,931,014	29.0	33.3
トランスフォーマーなど	40,180	185,049	2.8	360.6
コック・弁(バルブ)など	56,854	134,600	2.0	136.7
電話機	92,035	99,841	1.5	8.5
テレビなど	87,403	72,649	1.1	△ 16.9
気体・真空ポンプ	42,783	69,505	1.0	62.5
輸送機器・同関連品	1,003,781	1,404,496	21.1	39.9
乗用車	408,854	621,822	9.4	52.1
バス	182,100	163,095	2.5	△ 10.4
モーターサイクル	46,778	62,424	0.9	33.4
卑金属・同製品	531,352	598,168	9.0	12.6
鉄鋼製構造物・同部品	34,179	98,628	1.5	188.6
プラスチック・ゴム生産品	392,254	490,071	7.4	24.9
化学工業生産品	434,653	476,266	7.2	9.6
植物性生産品	268,642	270,775	4.1	0.8

[出所] ナイジェリア連邦統計局。

億ドルの砂糖精製工場を建設する計画も発表した。また、スイスのネスレは調味料マギー製造工場(オグン州)を11年2月から稼働している。

通信分野では10年3月、インドの通信大手バート・エアテルが、ナイジェリアなどで携帯電話事業を展開するクウェートのザイン・アフリカ BV の買収(107億ドル)を発表。9月には米国の半導体大手クアルコムがラゴス事務所を開設、11年4月には米ヴェンドテック・システムズがナイジェリアのユニバーサル・ペイメントシステムズとプライベート・サービスのライセンス契約の締結を発表した。

資源分野では、10年5月に中国建築工程総会社とナイジェリア石油公社(NNPC)が合弁で、3つの石油精製所と石油化学コンプレックスの建設に合意(230億ドル)。11年3月には、ナイジェリア政府、サウジアラビアのザイネル、インドのナガルジュナ肥料化学が、石油化学工場と2つの肥料工場を南部デルタ州とラゴスに建設するMOUを締結した。5月には、蘭英ロイヤル・ダッチ・シェルと米シェブロンの子会社が、国内電力需要の70%以上の供給能力を持つ発電所向けの天然ガスの供給に関して、NNPCとの間で合意した。

このほか、韓国のLG電子は西アフリカ最大のサービス・センターをラゴスに開設(10年6月)、南アフリカの食品小売業者スパー・インターナショナルは、現地企業と組み「SPAR」ブランドのスーパーを開設した(10年8月)。また、米国の大型ホテルチェーン、スターウッド・ホテル&リゾートは10年10月にフォー・ポイント・ブランドの新規ホテル(220部屋)を、ベルギーに本社があるレジドール・ホテ

表2 日本の対ナイジェリア主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:1,000ドル, %)

	2009年		2010年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額(FOB)	564,182	668,119	100.0	18.4
工業製品	480,914	586,339	87.8	21.9
機械機器	284,541	368,703	55.2	29.6
一般機械	59,048	54,204	8.1	△ 8.2
電気機器	28,213	56,056	8.4	98.7
輸送機器	191,403	254,538	38.1	33.0
バス(10人以上輸送自動車)	98,515	121,270	18.2	23.1
乗用車	64,066	96,977	14.5	51.4
モーターサイクル	9,998	13,509	2.0	35.1
金属品	120,602	144,948	21.7	20.2
鉄鋼	117,062	143,277	21.4	22.4
その他の原料別製品	49,269	40,363	6.0	△ 18.1
ゴム製品	49,168	40,353	6.0	△ 17.9
原料品	74,918	77,521	11.6	3.5
繊維原料	54,013	64,733	9.7	19.8
合成繊維の長繊維のトウ	38,227	46,746	7.0	22.3
輸入総額(CIF)	535,255	551,532	100.0	3.0
鉱物性燃料	497,162	460,289	83.5	△ 7.4
天然ガス、製造ガス	377,200	362,805	65.8	△ 3.8
液化天然ガス	351,940	285,066	51.7	△ 19.0
液化プロパン	18,655	54,775	9.9	193.6
液化ブタン	6,604	22,964	4.2	247.7
石油・同製品	119,963	97,484	17.7	△ 18.7
石油・歴青油(原油)	119,963	79,865	14.5	△ 33.4
原料品	22,266	61,568	11.2	176.5
その他の植物性原料	22,266	61,523	11.2	176.3
ごま(採油用のもの)	22,264	61,498	11.2	176.2
工業製品	11,604	28,929	5.2	149.3
金属品	11,222	28,254	5.1	151.8
非鉄金属	11,218	28,254	5.1	151.9

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

ル・グループは11年5月に、同社初のホテル(170部屋)をラゴスで開業した。

■ 日本からの輸出が回復

日本の財務省「貿易統計」をドル換算すると、2010年の日本からナイジェリアへの輸出額は6億6,812万ドル(前年比18.4%増)と増加した一方、輸入額は5億5,153万ドル(3.0%増)と微増にとどまった。

日本からの輸出は、2009年に減少した主要品目の鉄鋼(構成比21.4%、前年比22.4%増)、バス(18.2%、23.1%増)、乗用車(14.5%、51.4%増)が増加に転じた。輸入では、LNG(51.7%)が数量ベースで増加したものの金額ベースで19.0%減少、原油(14.5%)は数量ベースで半減し金額ベースでも33.4%の減少となった。ごま(11.2%)や非鉄金属(5.1%)は2倍以上増加した。

日本からの投資事例としては、10年8月にエルエヌ・ジー・ジャパンが、南中部ブラズ地域のLNG事業に関しNNPCと協議を開始、伊藤忠商事や米センブラ・エナジーとともに同事業への参画を進めている案件がある。また10年12月には、新日本製鐵と伊藤忠丸紅鉄鋼が、ナイジェリアの冷延鋼板製造・販売会社ミッドランド・ドーリング・ミルズに対し、300万ドルずつ出資することに合意した。